



☆2015年度後半のたまご活動紹介☆

アピオあおもい秋まつりにてグループワーク他開催しました！



●初参加で・・・

11月8日、アピオあおもりで行われたグループワーク「私にとってのカミングアウト～“クローゼット”を出るとき」とフリートークに参加しました。

サポーターとして初めて参加して、創さん、柘さん、海香さん、そして他のメンバーの皆さんと会い、緊張していたわたしを優しく迎え入れてくれたので、グループワークでは自分の意見を話すことが出来たし、そのあとのフリートークでも、みんなと色々な話が出来たのが楽しかったです。（ユカコ）

●スタッフとして参加して・・・

グループワークに参加くださった方は当事者さんやノンケさん、県外からお越しくくださった方まで様々でした！4つのテーマについてみんなで思うところを書いて出し合い、それを最後にまとめて発表するというものですが、色んな立場、色んな目線からの意見が聞けて、また様々な方向性も見えてきて、ゆっくりですが、青森でも進んでいけるのかなと実感できた場でした。

参加してくださったノンケさんも、当事者の立場はわからないけれどといつつも、改善できることがあれば提案してくださったりして単純に嬉しくなりました。

きつと抵抗なく、秋まつりに来場された方がグループワークや展示に来てくださることが最善なのかもしれませんが、多くない人数でもあれだけの意見やお話が出てきたことは素敵なことだと思います。

いつかこうした場に、「こんな嬉しいことがあったよ」や「こんな素敵な出来事があったよ」ということがたくさんあふれてくるようになればいいなと参加してみたいと思いました。

午後の展示に来てくださった方はお子様がいらっしゃるらしく、「子どもにカミングアウトされたら否定するような親になりたくない」とおっしゃっていたのが印象的でした。そう言うてくださる方が自然に増えていったら嬉しいなと思います。（奏）



「青森をテーマにした朗読会」に出演しました！

1月30日、青森市での市民活動企画展の企画の一つ、「青森をテーマにした朗読会」にスクランブルエッグも参加。議員やアナウンサー、中学生、朗読サークルなど、様々な方が出演された場に一緒にさせていただきました。

当日スクランブルエッグでは、『カミングアウト・レターズ』におさめられている、息子と母の手紙のやり取りから一部を朗読。10分ちよっとの朗読時間でしたが、感動したと声をかけてくださる方たちもいらっしゃいました。

自分とは異なる性のあり方を“理解”することは簡単ではなくても、知ろうとすること、心に寄り添おうとすることから始まるのかもしれませんがね。

こちらの本については、本紙4面の「Smash Hit!」でご紹介しています。ぜひご覧ください！（創）



ここで生きる ～多様な“性”と“生”～



今回の特集はインタビュー。シリーズ「ここで生きる」です。青森県内にお住まいで、性同一性障害（tM）のお子さんがいらっしゃるSさん（仮称）にお話を伺いました。



— お子さんからはいつ頃どんなタイミングでカメラアウトされましたか？

高校受験の時期でしたね。はっきりと性同一性障害とか言われたわけじゃないですけど。（カムされて）「あ、やっぱり～？」みたいな（笑）

— 子どもの頃から何となく感じていらっやったんですね（笑）その後は？

はてどうしようかなって。スカート履きたくないと言われたけど、受験は申し込みしているし、とにかく受けてもらいました。そしたら合格して、「行ってみる」ということに。

でも学校で先生が、男子なんだから、女子なんだからと分けるのがすごく嫌だと。中学まではジャージを着たりと何とかなってきたのかもしれないです。高校に行き始めて一ヶ月くらいで、学校に行けなくなってしまいました。

学校へ行き担任とお話したら、その先生は「もし男子としてであれば来られるかな？」とも言ってくれましたが、知っている子達がいるので本人としては突然学ランを着ていくわけにもいなくて。担任とも相談し定時制の高校を受けることにして、一年休学しました。

定時制の試験では保護者の面接もあって、一通りまた事情を説明しました。ところが、その時の様子が…「トイレはどうするんですか？」「みんな同じ場所で着替えるんだよ、どうするの？」と。どうするの？どうするの？しかならないんです。

— え～…それを考えようよっていう話ですよ（汗）

あ、完全にもう端から否定してる～と思って。大丈夫だと思いますよ、こうすればできると思いますよと言っても、全然聞く耳持ってなくて。「もういいですよ～」と言われ面接が終わりました。

結果、案の定不合格の通知がきました。

それで別な通信の高校を受けて、今度は合格しました。入学説明会の時に「この後いいですか？」と呼ばれて。そこで事情を話して、男子として通わせてほしいとお願いしたら、「いいですよ、大丈夫ですよ」「前にもこういう事例あったから」と。



「名前どうする？」「漢字どうする？」と言われて、そこまで考えてなくて、深く考えず取り急ぎ漢字をつけたんですよ。ちゃんと考えてあげればよかった！と後になって思いました。本人も「何でもいい～」みたいな感じだったので（汗）

— ま、まあ、きつと大丈夫ですよ！（汗）それから学校の方は？

入学式の名簿も男の子の名前で、三年間そうやって扱ってくれました。他にも同じような子はいたみたい。クラスの子も、バカにする風ではなく普通に、ざっくばらんに話していました。そんな感じなんだ～、それはそれでいいんだなと思いました。

— 生徒達の方が、ずっと受け入れている感じ？

そうそう。下の子の同級生にも、「男の子だけどあの子は完全に女の子だよ」という子がいるけど、周りは別に普通に受け止めてるし。同僚の子どもが通っている学校にもそういう子がいて、気にす

ることない、結構いるよって。(そういう子が)先生の身内にもいれば、先生達の考え方も変わるんだろうけど…。

公務員で裁判起こした人いますよね、トイレを使わせてくれないって。あれもひどいよね。行く先々で説明しなきゃいけないの？それもちょっとじゃない？って。

—— お子さんは、戸籍の改名もされたんですよね？

はい。通信に通っていた頃に、彼が「名前変えたい」と書類を自分でそろえて、(家庭裁判所に)提出しに行ったんですよ。すげー！自分で調べて自分で書いたんだ！ホントに変えたかったんだな、って思いました。

—— 病院のことも教えていただけますか？

カミングアウトされた時に、じゃあ病院行こうかとなったけれど最初はどこに行けばいいのかわかりませんでした。それで、たまたま通院していた総合病院へ行き、精神科の思春期外来というところへ回されました。



そこで担当になった医師が「性同一性障害じゃないでしょ？思春期特有のさ」みたいな話にしたがるんですよ。一年近く通ったけれど全然話が進まない。何しに来てるの？と本人も言っていたし、医師も何のために来てるの？みたいな感じで。

それで、しびれを切らしてわざと曜日をずらして他の医師に診察してもらい事情を話したら、すんなり診断書を書いてくれました。意外と(病院も)微妙なんだなと。

—— 病院側も必ずしも詳しくはないみたいですね…治療では自分でもしっかり情報収集することも大事ですね。学校や病院の他に、周囲には話していますか？

彼があまり話したい様子ではないので…。でも親戚の結婚式の時は、前もって事情を説明して「スーツで来るけど何も言わないで」と伝えました。誰も何も言わず、(席次の)名前も変わっていたけど、

呼び方は急には変えられなかったですね。お年玉も男の子の名前で書いてくれますが、呼び方は前のまま。でも気にしていないです。

大変だったね、と言われることもありますが、そうでもないかな、と。小学生の頃から自転車も洋服も男の子仕様ですが、女の子だからこうしなさいとか言ったことがないんです。だから、困った…というのは、きっと学校の中が一番だったんだろうと。本人に聞かないとわからないけれど。

—— でもそういうお母さんでよかった～。

だから私のところに生まれてきたんだろう(笑)
どんな子でもかわいいんだ。ホントにかわいいんだから。



—— 社会に望むことはありますか？

(性同一性障害も)普通の人だし別にいっぱいいると思うんだけど、自分の子どもがそうだったら受け入れられないかもと言われたことも。でも意外と、わかってくれるのかなというのを感じるの、みんながそんな風に思ってくれるといいですね。

—— 最後に、お子さんにどんな風に生きていってほしいと思いますか？

大きなことはしなくていいけど、自分らしく生きてもらえればいいな。無理することなく、生きたいように生きてほしい。

ただ、多分大変だと思うのよ。それが一番大変なことなんだろうと。だから、助けてやれるところは助けてやりたいと思っています。

—— Sさん、貴重なお話ありがとうございました☆

これはあくまでもSさんの体験ですが、誰もが無関係ではありません。身近なところに多様な性や恋愛のカタチがあること、マイノリティもその家族も変わりなく生きていることが、少しでもたくさんの人に伝わりますように。(劇)

【コラム】“OUT”と“CLOSET”

今、気になっている仙台での催し物があります。一つは「OUT IN JAPAN」の仙台撮影会(3/21)。セクマイの人たちのポートレートをフォトグラファーが撮影して、5年間で1万人のギャラリーを目指すプロジェクトの、東北初の撮影会です。

その一方で関連企画として、地元グループさん主催の交流イベント「私がカミングアウトしない理由～CLOSET IN JAPAN」(3/20)が・・・！この企画を見た時、そうきたか！と思わず笑ってしまいました。

知ってもらおう、という活動をしていると、「カミングアウト※1を推奨している」「どこでも誰にでも話せる」ように見られることが時々あります。でも、それは私達の実際の感覚とは違うんですね。

スクランブルエッグに参加するセクマイのメンバーさんは、ほとんどがクローゼット※2です。ほとんどの人がクローゼットでいようと思うくらいには、まだまだセクマイにとってはカミングアウトしづらい環境です。話せる場所は限られるし、とても慎重になります。

そうした環境を変えていくためのOUT IN JAPANであり、そうした環境をも生きていくためのCLOSET IN JAPANなのかもしれません。これはきっと二分されるようなものではなく、どっちだって良く、両方だって良く、とにかく少しでも自分が自分らしく生きていけたらそれでいいのかもしれないよね、と改めて思いました。クローゼットでいようと思う自分もまた、自分なんですよ。

そのうち、カミングアウトを迎える側の「OO IN JAPAN」も開催されたら面白いですね(*^^*) (創)

SMASH HIT!

『カミングアウト・レターズ』
RYOJI+砂川秀樹、編／
太郎次郎社エディタス／2007年



ゲイ・レズビアンのカミングアウトをめぐる、子と親、生徒と教師の手紙のやり取り等をおさめた作品です。

編者によると、家族や教師にカミングアウトしている人が多くはない中、なるべくメディアに出たことがない人にお願いしたとのこと。

どこか遠くの特別な人の話ではなく、どこにでもいる家族、教師・生徒の間でのカミングアウト。そこには前向きなエールだけではなく、葛藤や悲しみ、それぞれがそれを乗り越えていこうとする姿も描かれています。是非一度読んでいただきたい一冊です。(創)

OUT IN JAPAN
公式サイト <http://outinjapan.com/>

私がカミングアウトしない理由～CLOSET IN JAPAN
告知記事 <http://goo.gl/WkYZ6q>
(♀×♀お茶っこ飲み会・仙台さんのブログ記事内)

※1 (ここでは)自分のセクシュアリティを相手や周囲に明かすこと
※2 周囲にセクシュアリティを明かしていない状態

【東北各地でイベントを開催している団体】

○青森インターナショナルGBTフィルムフェスティバル
<http://www.aomori-lgbtff.org/>

○性と人権ネットワーク ESTO
<http://akita.cool.ne.jp/esto/>

○岩手レインボー・ネットワーク
<http://ameblo.jp/iwaterainbownetwork/>

○♀×♀お茶っこ飲み会・仙台
<http://blog.goo.ne.jp/ochakkonomi>

○Anego
<http://blog.canpan.info/anego/>

○やろっこ
<http://sendai865.web.fc2.com/>

☆☆☆メルマガ登録受付中！！☆☆☆

スクランブルエッグでは、メールマガジンを時々発行しています！登録は無料です(^-^)

「無理せず楽しく、自分達の生活を大事にしながら、できることをしてみよう！」というのがモットーの当たたまご。主催イベント自体は年に2～3回程度ですが、開催のお知らせのメール等を配信させていただく予定です。

登録ご希望の方は、件名に「メルマガ希望」と入れて、gochamazetamago@yahoo.co.jpまでご連絡くださいね！

【にじたまの主な設置場所】

青森県男女共同参画センター「アピオあおもり」／青森市民図書館／青森市男女共同参画プラザ「カダール」／弘前市立図書館／弘前市民参画センター／弘前大学／FMアップルウェーブ／藤崎町ふれあいずむ館／平川市文化センター／スポカルイン黒石／五所川原市立図書館／八戸市立図書館／八戸市図書情報センター／八戸市民活動サポートセンター「ふれあいセンターわいぐ」／十和田市民図書館／三沢市公会堂／むつ市立図書館